

モノヨリ生スル利子ノミ之ヲ基金ニ繰入レ其増殖ヲ百萬フロリシニ限レリ此方
法ハ一八四八年迄行ハレシカ爾後ハ其基金ヲ他ノ經費ニ流用スルニ至リ茲ニ基
金ノ主權ハ破レ一八五九年ニ至リ全ク廢止セラレタリ

米國モ於テモ一七九五年後償還基金ノ主義ヲ採リシカ其結果ハ却テ公債ノ總
額ヲ増加スルニ至リシヲ以テガラチンハ之ヲ捨テントシ條例ノ改正ヲ試ミ公債
元金ノ償還利子ノ支拂ノ爲ニ繼續費トシテ年々七百三十萬弗ヲ支出スルコト、
セリ面シテ此額ハ年々ノ利子支拂ノ外元金償還ヲ爲ス餘地ヲ存シタリシコト
ナシト雖トモ其元金償還ハ歲入ノ剩餘額ニ之ヲ求ムルコト、セリ是ヲ以テ名ハ
償還基金制度ナリト雖トモ實ハ既ニ自由償還制度ニ進ミタルモノト云ハサルヘ
カラス此方針ハ終ニ米國ヲシテ一八三四年全ク公債ノ負擔ヲ免レシムルニ至レ
リ一八六〇年ノ南北戦争ニ於テ又公債ヲ負ヒ再ヒ償還基金ノ制度ヲ起シタリシ
カ終ニ失敗ニ了リ又國庫剩餘金又ハ繼續費ニヨリテ償還ヲ爲スノ主義ヲ採ルニ
至レリ

第三目 償還基金制度ノ根據及得失

前述ヘシカ如ク償還基金ノ制度ハ一定ノ收入又ハ財産ヲ基金トシ之ヲ以テ公
債ノ償還ヲナサントスルモノナリ之ヲ狹義ニ解スレハ複利主義ニヨル基金制度
ナリ從テ此制度ノ根據トスヘキモノハ公債償還ノ擔保ヲ供スルノ目的ト利殖ヲ
ナスノ手段ト複利ノ理論トニ在リ

(一) 蓋シ國家ハ經費多端ニ過クルヲ以テ一旦負ヘル公債モ其償還ヲ忽ニスルコトア
ルヘク其有期公債ハ多額ナルニ從ヒテ其債務ノ履行困難トナリ債權者ヲシテ危
疑ノ念ヲ拂マシムルコトナシトセサルヘシ然ルニ今一定基金ヲ作り專ラ之ヲ公
債ノ償還ニ用ヒシメハ公債償還カ無窮ニ延ハサル、ノ虞ナク又債權者ハ之ニヨ
リテ大ニ安スルヲ得ヘシ故ニ此制度ハ國家カ其負擔ヲ減シ又公信認ヲ増スカ爲
ニ必要ナリ

(二) 公債證券ハ放棄ノ手段トシテ用ヒラル何トナレハ其證券ヲ所有スルノミニエテ
年々一定ノ利子ヲ得ヘケレハナリ此思想ニ基テ償還基金ニ買上ケタル公債證券

ハ之ヲ消滅セシメスシテ基金ノ財産トシ之ヲ利殖セシメントスルナリ
 (三) 複利ノ理論ハ前ノ利殖ノ觀念ト全ク相離レタルモノニ非ス今十億圓ノ公債ノ
 償還センカ爲ニ年々千萬圓ノ収入ヲ以テ基金ニ繰入ルトセン第一ノ年ニ於テハ
 千萬圓ノ公債證券ヲ買上ケ(買上ハ多ク平價以下ニ於テスルモノナルヘシト雖ト
 議論ノ煩雜ヲ避ケテ平價買上ト假定セン)元金ハ九億九千萬圓トナルヘシ然ル
 第二年ニハ千萬圓ノ基金ト先年買上ケタル公債千萬圓ノ利子五十萬圓(假ニ五分
 利ト計算ス)合計千五十萬圓ヲ以テ公債證券ヲ買上ケ得ヘク從テ公債ノ總額ハ九
 億七千九百五十萬圓トナルヘク第三年ニハ千萬圓ト前兩年ニ買上ケタル公債一
 千五十萬圓ノ利子百二萬五千圓ト總計千百二萬五千圓ヲ以テ公債證券ヲ買上
 得ヘク公債ノ總額ハ九億六千八百四十七萬五千圓トナルヘシ此方法ニヨルト
 ハ一ヒ買上ケラレタル公債ノ利子ハ直ニ基金トナリ基金ハ年々累進的ニ増加シ
 後年ニハ其額莫大トナルカ故ニ容易ニ元金ヲ買上ケ盡スルコトヲ得ルナリ是即
 テアラニス博士ノ唱道シタル複利ノ理論ナリ若シ此理論ヲ推ストキハ毎年一此
 額ヲ償還基金ニ繰込マストモ一ヒ基金ヲ作り其利子ヲ増殖スレハ少シク償還ノ

了スル期ニ至リテ複利ノ法則カ行ハルコトハ依然タルカ故ニ又比較的早ク
 而シテ少額ノ金ヲ以テ多額ノ公債ヲ償還スルコトヲ得ヘシ是ヲ以テ公債ヲ起スト
 キ其手取金ノ幾分ヲ積立テ、基金トシ之ヲ複利ニ増殖シテ償還ヲ了セントス
 ル説出ツルナリ又彼ノ五分利ノ公債ヲ償還スルカ爲ニ六分利ノ公債ヲ起スモ不
 可ナシトノ説モ此複利ノ觀念ヨリ來ルモノナリ蓋シ償還基金ヨリ買上ケラ
 ル、公債ハ五分利ナリトスルモ之ヲ複利トスルカ故ニ其利殖ハ甚タ急ナルヘキモ
 償還基金ヲ作ル爲ニ起ス公債ハ假令六分ナリトスルモ單利ナルカ故ニ永年ニ於
 テハ其額前者ヨリ少シトセサルヘカラナレハナリ

以上ハ償還基金制度ノ根據ト見ルヘキ論ナリ併シ其論ハ誤謬ノ假定ニ立ツモ
 ノナキニアラス從テ此制度ニ關シテハ非常ノ反對アリ今遺テ之ヲ論ゼン
 (一) 償還基金ハ財政ノ伸縮ヲ妨ク、夫レ國家ハ永久ノ生命ヲ有スルカ故ニ其間ニ
 ハ必ス波瀾アリ併シ何時如何ナル事ノ生シタリトスルモ十二分ニ之ニ處スル所
 ナカルヘカラス故ニ其財政モ亦變ニ應スルノ餘地ヲ存セサルヘカラス此餘地ヲ
 存スルハ財政ヲシテ自由ニ伸縮スルコトヲ得セシムルニアリ財政ヲシテ自由ニ

伸縮スルヲ得セシムルハ其收入ヲ一定ノ用途ニ固定セシムルヲ必要ニ收入ヲ一定ノ用途ニ固定セシムルハ其收入ヲ一定ノ用途ニ固定セシムルヲ必要ニ收入ヲ一定ノ用途ニ固定セシムルヲ必要ニ

ナル經費ヲ辨スルロトヲ得ルニ然ルニ公債償還基金ノ制度ハ一定ノ收入ヲ一定ノ用途ニ固定シテ他ノ流用ヲ許サズルカ故ニ明ニ財政伸縮ノ自由ヲ妨クルモノト云ハサルハカラス此ノ流用ヲ他日ノ財政困難ハ生スルナリ是レ明ニ愚策ナラシヤ而シテ其愚策ハ基金ノ額高キニ從テ愈々甚シ謂フ勿レ緩急事アル場合ニ處スルニ起テ償還ノ道アリ平時ニ於テ基金ヲ作ルモ亦憂フル所ナシト余ヲシテ(三)ニ於テ之ヲ答ヘルハ

(二)償還基金ハ他ニ流用セラルルハ償還ノ精神ヲ損傷スルハ其難シハ前ニ述レタル如ク償還基金ハ財政伸縮ノ自由ヲ妨クガ故ニ緩年財政家シ大ニ告ル所ナリト云フハ得ルモ若シ初ノ計畫ヲ時ランカ財政難ヲ救フニ由ナン財政難ヲ救フニ償還基金ハ流用スルハ是レ償還ノ目的ニ對シテ償還基金ノ制度ハ其目的ヲ達スルニ對シテ交送ノ機關ヲ組織スル人モ亦變ハ之ヲ制シタル財政官ノ意見ハ必

レニ償還基金ノ制度ハ其目的ヲ達スルニ對シテ交送ノ機關ヲ組織スル人モ亦變ハ之ヲ制シタル財政官ノ意見ハ必

モ目前ノ急ニ對シテ之ニ添テ計ナシルニ是ヲ以テ基金制度ヲ定タル國ニ於テモ多ク之ヲ實行スルヲ得ルニ且他ノ流用ヲ禁ズルモ後他ノ目的ニ流用セラレタルヲ始メ爾ナリ前目ニ述タル歴史ハ最モ詳ク之ヲ説明セリ(三八八頁三九四頁參照我國ニ於テモ所謂三基金ナルモノ其他ノ目的ニ使用セラレタル例ヲ遺セリ是レ豈國家財政ノ性質ト基金ナル制度ノ相容レサルモノアルカ爲ニ非スヤ是人カ償還基金ノ制度ハ戰時ニ行ハレズト云フ所以大ニ然リ豈夫レ戰時ノミト云ハシヤ

(三)償還基金ノ制度ハ政府ノ損失ヲ招ク(1)前論スルカ如ク償還基金制度ハ他ノ流用ヲ禁ズルニ對シテ最初ノ目的ヲ實行スルニ備ス併シ若シ變ニ通スルノ財政家ヲ缺キ節々迄其主義ヲ墨守セシカ其國家ノ損失ハ計リ知ルヘカラナラントス國家ノ需要ハ絶對的ナルモノ存スルカ故ニ此ノ如キモノハ必ス之ヲ支辨セザルカラス不令償還基金ニ一定ノ收入ヲ繰入レテ之ヲ他ニ流用シ得ストセハ起債其他ノ方法ニヨリテ支辨セザルヲ得ス(2)若シ國家ノ需要額カ償還基金ノ公債買上額ニ等シカタンカ償還基金ノ制度ナシトセハ其費用ハ一般收入ヨリ基金ニ繰入ラレハカリシ額ヲ以テ辨シ得ヘク又此制度アリトスルモ公債買上ヲ廢シテ之

他ニ流用スルコトヲ許ストキハ國家ハ何ノ損スル所モナカルヘシ然ルニ今一カニ公債ノ買上ケニ從事シ他方ニ公債ヲ起サハイ公債買上及起債ニ要スル手數ト費用トヲ損スヘク(ロ)發行價格ト買上價格ノ差ニテ損スヘシ若シ發行價格カ買上價格ノ上ニアルトキハ政府ノ利益トナルヘシト雖トモ此ノ如キコトハ殆ト稱ナリ蓋シ政府カ起債スルハ變道ナルヲ常トス財政困難ノトキ又ハ財政ノ運用宜キヲ得スシテ起債スルトキハ發行價格ハ動モスレハ低カラントス假令然ラズシノ財政ノ好況ニ乘シ起債スルトスルモ債權者カ強勢ヲ有スルトキハ政府ハ不利ノ條件ニ忍ハサルヘカラス之ニ反シテ公債ノ買上ヲ爲ストキハ其弊ノミニテモ動モスレハ公債ノ價格ヲ高メ政府ハ比較的高價ニテ買入ル、コト、ナルヘシ此クシテ買上價格カ發行價格ヨリ高キトキハ國家ヨリイヘハ安ク賣リタルモノヲ以テ高ク買ハサルヘカラスナルカ故ニ公債ノ全額ハ初ヨリ多クナラサルヘカラス是レ公債ヲ減スルニアラズシテ公債ヲ増スモノナリ減債基金タル實何クニ在リヤ

(ハ)此レト同ク國家ノ損失ハ又利子ニ付テモイフコトヲ得ヘシ即チ高利公債ヲ起シテ低利ノ公債ヲ買上クルカ如キ場合はナリ論者咸ハ權利ノ法則ヲ以テ之ヲ辯護

セシ余之ヲ(五)ニ於テ論及セン此ノ一方ニ公債買上ヲナシ他方ニ公債ヲ起ス場合ニ於テ發行買上價格ノ差ニテ損シ利子ノ差ニテ損スルコトハ單ニ理論ノミニアラズシテ償還基金ノ歴史ハ最も能ク之ヲ證明ス(三九一頁參照)余ハ尙今一例ヲ佛國アルボン家ノ復政時代ニ於ケル買上ト起債トノ關係ニ探ラシ一八一六年ヨリ一八二五年ニ至ル間ニ於テ起債ノ發行價額ハ平均七十法六十五サンチムナルニ買上價格ハ八十法七十七サンチムナリシト云フ今年別ニテ之ヲ驗スルニ

一八一六年五分利ノ公債	發行價格 五七法二六サンチム 手取金額 六九、七六三、〇〇〇法	買上價格 五七法三三サンチム 買上額 二〇、四三九、七二四法
一八一七年 同	發行價格 五七法五一サンチム 手取金額 三四五、〇六五、〇〇〇法	買上價格 六四法八五サンチム 買上額 四三、〇八四、九四六法
一八一八年 同	發行價格 六六法五〇サンチム 手取金額 一九七、九〇九、〇〇〇法 六七法 手取金額 一六五、〇〇〇、〇〇〇法	買上價格 七〇法五〇サンチム 買上額 五一、八三二、三三三法
一八二二年 同	發行價格 八五法五五サンチム 手取金額 一六四、〇〇〇、〇〇〇法	買上價格 八五法四四サンチム 買上額 七七、六〇三、四六六法

一八二三年 同

發行價格 八九法五五テンチーム 手取金額 四一三、九八三、〇〇〇法
買上價格 九四法

以上示ス所ニヨリテ見レハ發行價格ハ常ニ買上價格ノ下ニ在リト云フヲ得ヘク只其例外ヲ爲スモノハ一八二一年アルノミ併シ一八二一年ノ終ニ公債ヲ發行シ一八二二年ニハ八九法八九ノ價格ニテ八〇、八三六、二八四法ノ買上ヲ行ヒシヲ以テ一八二一及一八二二ノ兩年ヲ通シテ見ルルハ發行價格ハ買上價格ノ下ニナルヲ見ルヘシ而シテ兩年買上總高ハ五八、四三九、七一〇法餘ニ當ルカ故ニ買上ヲナサ、レハ公債ノ發行モ必要ナカリシナルヘク又發行價格ト買上價格トノ差ニテ損失スルモノナカリシナルヘシ是レ一例ノミ而モ償還基金制度アルカ爲ニ國家ノ損失ノ頗ル大ナルヲ知ルニ餘リアルナリ此ノ如ク發行價格カ買上價格ノ下ニアルヲ例トスルカ故ニ償還基金ヲ批難スルモノカ之ヲ以テ安ク賣リテ高ク買ノノ制度ナリト云フカ(b)又國家ノ需要額カ償還基金ノ公債買上高ヨリ大ナルトスルモ償還基金制度ニ關東セラル、マトナケレハ國家ハ比較的少額ノ公債ヲ起シテ其用ヲ辨スルモトテ得國家ハ之カ爲ニ損失ヲ免ル、ヲ得フケン公債ヲ起

セハ手数料費用ヲ要スルコト論ナクシテモ(イ)少額ナルカ爲ニ其費用ヲ減シ得ク(ロ)一方ニ買上ノ爲ニ要スル手数料費用ヲ節スルヲ得ヘク(ハ)發行價格ノ差利子ノ差ハ少シク損失ヲ避ケ得ヘク之ニ反シテ償還基金ニ拘束セラル、ハ此等ノ損失ヲ避クルコトヲ得ス其證ハ之ヲ遠キニ求ムルヲ要セス前ニ示セシ佛ノ例ヲ見テ其一編ヲ知ルヘシ前目ヲ歴史ニ於テモ亦之ヲ見ルヘシ(三八八頁三九五頁參照)
(2)以上ハ國家ノ總額ヲ爲シ起債スル必要アル場合ヲ論シタルモノナレトモ此論ハ又償還基金ヲ存シカ爲ニ起債スル場合ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘシ蓋シ年々一定ノ收入ヲ基金ニ繰入レタルヘカラストセハ財政上之ヲ得ル難キニ及ンテ公債ヲ起シテ其基金ヲ作ラントスルニ至ルハ自然ナルヘシ(三九一頁三九四頁參照)是處勘定ヲ一方ヨリ他方ニ移スニ過キス此勘定ヲ移スカ爲ニ豫メ多クノ官吏ヲ養ヒ其實行ニヨリテ多クノ手数料費用トヲ投シ發行價格ト買上價格ト差ヲ損セシトス天下何物カ其愚ニ及ラズモノアラシキ然ルニ論者或ハ六分利公債ヲ起シテ五分利公債ヲ買上タルモ不可ナシト云フ是レ其利殖ノ觀念ト複利ノ理論トヨリ出テシモノナリ仍テ今進テ其愚ヲ拔カン、

(四) 余ハ數學上複利ノ計算ヲ以テ誤アリト云フニアラス然レトモ余ハ先ツ其根據
 タリ前提タル利殖ノ觀念ヲ疑ハサルヲ得ス公債證券ハ素ヨリ放資ノ具トナスヘ
 シ放資ノ具ナリト雖トモ國家カ自己ノ債務ヲ表彰スルモノヲ所有シタルカ爲ニ
 如何ニシテ放資トナルカヲ解スルニ苦ム國家ハ一方ニ利子ヲ拂テ他方ニ利子ヲ
 請取ル是レ一ノ勘定ヨリ他ノ勘定ニ移シタルニ過キヌ一ノ勘定ヨリ他ノ勘定ニ
 移シタルハトテ利殖セラル、ノ理ナク生産的トナルノ道ナシ若シ之カ利殖トナ
 リ生産トナルナラハ會社又ハ個人ニ於テモ自己ノ債務ヲ表彰スル證券ヲ發行シ
 テ自己カ之ヲ有スル場合ニ又利殖トナリ生産トナラサルヘカラス併シ此ノ如キ
 方法ヲ以テ古來何人モ當ミタルコトヲ聞カサルナリ故ニ曰ク國家カ公債證券ヲ
 有スルモ亦利殖スルト云フヲ得スト豈管ニ利殖スルト云フヲ得サルノミナラン
 ヤ巨額ノ資金ヲ不生産的ニ積立テ而モ一方ノ勘定ヨリ他方ノ勘定ニ移ス爲ニ特
 別ノ官廳ヲ設ケ以テ人ヲ養フ之ヲ不生産的ト云ハスシテ何ヲカ不生産的ト云ハ
 シ加之狹義ノ償還基金ハ自己ノ有スル公債證券ニ對シテ國庫ヨリ利子ヲ得ルカ
 故ニ國庫ノ支出ハ基金ノアル爲ニ少シモ或セス從テ人民ノ負擔ヲ減セヌ名ハ公

債ヲ消滅スル基金ト云フ其難モ甚ハ少シ也公債ノ消滅ヲ爲スルナリ若シ其消
 滅更爲ニ時期アリトモ亦必ス其後全然之ヲ消滅スルノ時ナリ而シテ其永年ノ間
 ニハ種々ノ故障アリテ少シシテハ其目的ハ達セザレサルヲ如何センヤ果シテ然
 ラハ事口如カス初メ少シシテハ公債ヲ消滅シ其負擔ヲ輕クスルニハ此クシ
 テ負擔ヲ輕クセハ財政伸縮ノ餘地大トタル處カ爲ニ國ノ利スル所鮮少ナラサル
 ヘシ若シ財政順境ニシテ他ノ經費ノ必要ニ迫ラレサレハ其消滅セシメタルカ爲
 ニ拂フヲ要セサル利子ヲモ公債償還ノ資トシテ進マレ償還基金ノ他ノ弊ナクシ
 テ論者カ所謂複利ト云フ所以シ實ヲ得ヘケン論ヲ茲ニ至レハ論者ノ獲利ト云
 フモノハ獨リ償還基金ニ於テノト見ルヘキモノニアラサルヲ知ルヘシ若シ小額
 ヲ以テ複利ノ方法ニヨリ大額ヲ償還シ得トセハ自由償還方法ニヨルモ初メ小額
 ヲ以テ買上ケタル公債ノ利子額ニ相當スルモノヲ公債償還ノ資トシ毎年之ヲ累
 増セハ又同一ノ結果ヲ達セン

(五) 償還基金制度ハ償還ヲ擔保スルカ故ニ一見國家ノ公債認テ高メ得ルニ似タ
 レトモ必シモ然リト云フ能ハス若シ財政ノ伸縮ヲ妨ケテ之カ爲ニ財政困難ヲ生

シ其基金制度ヲ維持スヘカヲナルノミナラス明ニ國家ノ損失ヲ招カトセハ其表面ヲ見ル債權者ハ之ヲ以テ其國家ヲ信認スヘシト雖トモ其裏面ニ通スル債權者ハ却テ國家ノ信認ヲ薄クスルニ至ルナキヲ保セス是素ヨリ心理問題ニシテ一概ニ論スヘカラサルヘシ若シ償還基金説ニ辯護ノ餘地アリトセハ此心理問題ノ解決ヨリ國家ノ信認ヲ増スト云フ點ニ存セサルヘカカラス併シ其解決ヲシテ確乎動カスヘカラサルモノトシテ人ヲ首肯セシムルハ稍困難ナリト云ハサルハカラス

以上述ヘタルカ如ク償還基金ハ學理上殆ト辯護ノ餘地ナキニ似タリ併シ學者或ハアル場合ニ尙此制度ヲ維持セントスルモノアリ即チ生産的公債及小殖民地地方團體ノ公債ノ場合はナリ生産的公債ニアツテ其放下シタル資本ハ使用ニヨリテ次第ニ損傷スルモノナラズ故ニ之ヲ補充スル爲ニ一定ノ基金ヲ置カサルヘカカラス而シテ其生産的公債ハ又他方ニ再生産ヲ爲ス以テ其基金ヲ得ル方法モ困難ニアラズ云々云々併シコトハ又自由償還制度ニテモ行ハル、ゴトナリ又小殖民地諸地方自治團體ノ如キハ其財源ニ限リアレハ其負債多キニ過クルトキハ懸テ信用失墜スル虞多ク故ニ其信用ヲ補フカ爲ニ償還基金ヲ設ケ債權者

ヲ安キシムヘシト云フ是レ債權者ニ頼フル爲ニ總テノ財政上ノ都合ヲ顧ミサルモノナリ併シ小國家小殖民地地方團體ニ於テハ他ノ財政上ノ都合ヲ捨テ、モ債權者ノ意ヲ迎ヘサルヘカラサルモノアラズ殊ニ地方自治團體ノ償還基金ハ國家ノ其上ニ立テ監督スルモノアルカ故ニ産リニ其財政ノ困難ナル理由ニテ之ヲ他ニ流用シ得サルヘケレハ大國家ト異リテ之カ爲ニ信認ヲ増加スルコトモ之アルヘシ其國家ノ小ナルモノニ至テモ財政ノ小ナルト他ノ強國ノ威力カ不知不識ノ間ニ其基金ノ流用ヲ妨止シ得ハ又地方團體ト同一ニ論スルヲ得ニ或ハ曰ク地方團體ノ公債ハ市場ニ流通スルコト少ク之ヲ買上クルコト困難ナレハ一定ノ基金ヲ設ケテ之ヲ商業證券ニ放下シテ利殖スヘク其満期ニ及テ商業證券ノ手取金ヲ以テ支拂フヘシト此ノ如クンハ是レ眞ノ放資ニテ又自己ノ公債證券放資ノ脱ト其趣ヲ異ニスルモノナリ

要之償還基金ハ誤謬ノ前提ノ上ニ立テ採用シ得ヘキモノニアラス若シ採用シ得トセハアル例外ノ場合又ハ特殊ノ國若クハ團體ナリ

第四目 我國償還基金制度設立ノ可否

我國ニ於テモ明治財政史上償還基金跡ヲ見サルニアラス即チ明治十一年準備基金ノ内二千萬圓ヲ分テ減債金ニ編入スルコト、シ同時ニ減債基金條例ヲ定メ内外國債償還ノ爲メ明治十一年以降年々常用金ヨリ二千萬圓ヲ繰入ルヘキコトヲ定メリ併シ實際其後年々常用金ヨリ繰入レタルコトナク基金ノ増殖ト稱シテ公債證券ヲ買入ル方法ヲ採レリ明治十三年ニ至リテハ公債ノ買入ハ減債金ヲ以テセス準備金ヲ以テスルコト、ナレリ明治十五年ニ至リ減債部ノ所有セル公債證券ハ準備本部ノ正貨トカヘ準備本部ハ之ヲ賣却シタリ是ニ於テ減債部ハ公債證券ニヨル増殖法ヲ失セシヨリ其補足ヲ準備本部ヨリ仰キシカ買入證券ノ代リニ正貨ノミヲ有スルニ至リ其正貨ハ明治十九年準備本部ニ併セラレ基金ハ何ラモ爲サスシテ廢セラレタリ

然ルニ來年ノ豫算ニ於テ戰時公債ノ處理ヲナスカ爲ニ償還基金ノ制度ヲ設クルノ議アリト聞ク其案ニ曰ク政府ハ年々一億一千萬圓ノ歳入ヲ償還基金ニ繰入レ

三十年ヲ期シテ戰時公債ノ償還ヲ了ヘントスト未タ其詳細ナル案ヲ知ラスト雖トモ余ハ如何ナル理由ニヨリテ政府カ斯ル陳腐ノ制度ヲ拉シ來テ戰後財政ノ整理ヲナサントスルカヲ解スルヲ得ス從來我國ノ財政ハ僅ニ三億圓ヲ出テス然ルニ其三分一ヲ割テ償還基金ニ固定セシメントス財政ノ困難ヲ惹起スルヤ火ヲ親ルヨリモ明ナリ政府別ニ好個ノ財源ヲ發見セシヤ或ハ非常特別稅ヲ存置シ其收入ヲ以テ償還基金ニ繰入レントスルニアル乎併シ戰後ノ財政ハ戰前ノ財政ヨリモ多クノ經費ヲ要スルコト明ニシテ非常特別稅ヲ存スルモ尙以テ其經費ヲ撙スルニ足ラサルヲ恐ル此時ニ當テ償還基金制度設定ノ議ヲ聞ク吾人惑ハテラント欲スルモ得ヘケンヤ試ニ問ハン償還基金ノ制度ヲ建テ爾後三十年ノ間他ノ流用ヲ禁シ能ク其目的ヲ達スルコトヲ得ルカ一方ニ一億萬圓ノ歳入ヲ償還基金ニ繰入レテ他方ニ公債ヲ起シ以テ一時ヲ糊塗シ國家ノ損失ヲ招クコトナキカ吾人ノ理性ハ吾人ニ教ヘテ否ト答ヘシメントス過去ニ於ケル英佛ノ歴史ハ彼カ如ク財政學ニ於ケル多クノ學者ノ批難ハ此ノ如シ余ハ如何ニシテモ其成効ヲ疑ハサルヲ得ス見テ政府ハ一億一千萬圓ノ償還基金ヲ作ルト同時ニ五六億圓ノ公債ヲ起テ

ントスルヲ是レ抑モ何ノ兆ソ基金ノ制度ハ爾後政府ヲシテ其財源ニ苦マシノ之ヲ得ルカ爲ニ常ニ公債ヲ起シ其公債ヲ起スニ當リテハ償還基金ニ應募セシノ再ヒ之ヲ基金ニ入ル、カ如キ窮策ヲ採ルニ至ルコトナキカラ、是レ既ニ歴史ニ於テ見タル所亦架空ノ夢トノミ見ルヘカラス事茲ニ至ラハ實ニ天下ノ滑稽ト云、サハヘカラス思フニ償還基金ノ制度ハ尙時議ノ餘地アリ而モ將來我財政ノ良否ヲ分ツ關鍵タラントス茲ニ數千百ヲ費シタル所以ナリ

第二二項 自由償還制度

自由償還制度トハ國家カ法律又ハ勅令ニヨリテ明示的ニ償還ノ程度ヲ定メテ之カ履行義務ヲ負フコトヲ爲テス財政ノ狀況國庫金剩餘ノ如何ニヨリテ豫算上其償還ノ程度ヲ決スルノ制度ヲイフ

此制度ハ財政ニ剩餘ヲ生シタル時其剩餘ヲ以テ公債ヲ償還セントスルモノニシテ剩餘ナキニ之ヲ償還セントスルモノニアラス故ニ償還基金制度ノ如ク純然タル器械的ノ強制ヲ受ケス其財政ノ餘裕アレハ償還モ大トナリ財政ノ餘裕ナク

レハ償還モ少ク又或ハ全ク之ヲ缺ク其償還ハ全ク財政ト其ニ自由ニ伸縮スルモノナリ是レ自由償還ノ名アル所以ナリ英國ニ於テ一八二八年償還基金制度ニ對シテ批難起ルヤ委員會ハ償還基金ハ唯歲入剩餘ヲ以テ之ニ充ツヘシ併シ大蔵大臣ハ成ル可ク一年三百萬磅ノ剩餘ヲ存スルコトニ勉ムヘシト發議セリ *Goulburn* ハ豫算演說ニテ之ヲ修正シテ歲入剩餘ノ四分一ヲ以テ公債買上ノ資トスヘシトシ終ニ確定ノ法トナレリ之ヲ償還基金ト呼フモ其實ハ償還基金制度ニアラスレテ自由償還制度ナリト云ハサルヘカラス

此制度ニ於テハ償還ノ財源ハ之ヲ國庫ノ剩餘ニ求ム併シ國庫ノ剩餘ハ常ニ之ヲ公債ノ償還ニ用フルノミト決スルヲ得ス國家ハ活物ナリ一方ニハ舊來ノ弊ヲ捨テ他方ニハ新シキ事業ニ就カサルヘカラス若シ夫レ惡稅カ存シ人民ヲ苦ムルコト甚シク而モ國民經濟ヲ害スルコト大ナリトセハ國家ハ先ツ其稅ヲ廢止シ又ハ之ヲ改正セサルヘカラス若シ又新事業ヲ計畫スルノ必要起リ之ヲ遂ケスハ國家國民ノ進歩ノ企圖ヲ得ストセハ其經費ノ如何ニ拘ラス進テ之カ實行ヲ計ラサルヘカラ耳此ノ如キ場合ニ要セラル、新シキ經費ハ假令國庫ノ剩餘ナキモ少カ

財源ヲ見出サ、ルヘカラス今國庫ニ剩餘アリトセハ之ヲ新事業費ニ充ツルハ最モ其宜ヲ得タルモノナリ由是觀之發債償還ノ財源ハ元則トシテ國庫ノ剩餘ニ求メサルヘカラスト雖トモ其償還ヲ決スルニハ減稅ノ必要ト新事業ノ必要ト相比シテ其輕重ヲ定メサルヘカラス

右述フルカ如ク自由償還制度ノ下ニヨリテハ減債ト減稅及新事業トヲ比シテ其何レカラ決スルカ故ニ一定收入ヲ固定シテ財政ノ伸縮ヲ缺クカ如キ虞ナク又一方ニ公債ヲ償還シテ他方ニ起債スルカ如キ見解ヲ演ズルコトナク從テ故ナク公債ヲ還増シ費用ヲ多クスルノ損失ナシ此クシテ償還基金ノ制度ニ對スル卅難ハ全ク之ヲ拭ヒ去ルコトヲ得ルニモナラス多クノ場合ニハ公債ニヨラス剩餘ニヨラシムルカ故ニ公債濫用ニ對スル保障トモナルヘキナリ由是觀之自由償還制度ハ最モ能ク財政ノ性質ニ適合シ實ニ其有機的的成分ノ一ヲ爲スモノト云ハサルヘカラス

併シ自由償還制度ハ剩餘アルトキニ償還スレバ可ナルカ故ニ動モスレバ償還ヲ忘リ公債アリテ累積スルニ至ラシムルノ弊アリ公債ノ累積スルモ國富ノ發達

ト其ハ其負擔ヲ減スルニト雖トモ其負擔ヲシテ當時ノ一般負擔力ハ起シシ又起債餘額ヲ少クシテ起債力ハ國家財政上忌ムヘキノコトナリトス故ニ財政中策ハ公債ノ負擔ヲシテ一般負擔力ニ應ジシメ發債ヲ起シテ餘地ヲ存セシムルコトニ勉メサルヘカラス是ニ於テ自由償還制度ノ下ニアリテモ利率低減トキハ可成其減額ニ關シテ他ニ用ヒシテ公債ノ償還ニ充テ成ハ生産的公債ニ於テハ其償還ヲ其發債ニヨリ起シテ新事業ノ發達ニ資スルカ如キ方法ヲ採ルニ必要アルヘシ併シ此ノ如キ方法ヲ採ルニ決シテ自由償還ノ元則ヲ破リテ償還基金ノ制度ニ復歸セルモノト云フヲ得ス是レ財政家ノ償還ヲ忘ル、ニ對スル豫防ノミ否償還ヲ勉ムル一方法ノミ決シテ財政困難ノ時ニモ之ヲ固守スヘシトスルニアラズルナリ

要之現今ノ財政ハ有機的ナリ必要ニ應ジテ伸縮セサルヘカラス公債ノ償還ノ機械的ニ迫ルハ其財政ノ本質ニ反スルモノナリ併シ其有機的作用ヲ完全ナラシメントセバ將來ニ於ケル起債ノ餘地ヲ存スルニ勉メサルヘカラス國家國民ノ從供力ヲ見テ償還ノ程度ヲ決シ償還ニヨリテ以テ公債額ヲ高メ財政ノ余力ヲ存ヘ

ルトセハ償還問題ハ國民ノ提供力ト公債還トヲ結フ關節ト云フヘキナリ以テ由償還制度ノ現今財政上ニ於ケル價值ヲ知ルヘシ

併シ以上ノ論ハ有期隨時償還公債永遠公債ニ就テ之ヲイフヘカラス又以テ公債制度カ後者ヲ指公債又ハ有期一時償還公債ニ就テ之ヲイフヘカラス又以テ公債制度カ後者ヲ指テ、前者ニ進マラルヘカラス所以ノ理ヲ知ルニ足ラン

第三款 公債償還ノ時期及方法

第一償還ノ時期。公債シテ起債ノ現代ニ於テスヘキヤ後世ニ移スヘキヤノ問題アリ其是非ハ既ニ余ノ第四章第二節第一款丙ニ於テ論シタル所ナリ今重テ説ク(九五頁參照)

償還ノ時期ニ關シテハ次ニ年度内如何ナル時期ニ於テスヘキヤノ問題アリ

償還ハ前款第三項ニ於テ述ベシ如ク普通歳入ノ剩餘ヲ以テスルモノトセハ其償還ノ時期モ普通歳入剩餘ノ存スル場合ニ於テスヘキヤト更ニ多言ヲ要セハ年度内ニテ云ヘハ收支ニ關係スル收入多ク入り來リタル時ヲ以テ財政上便トス

シ殊ニ利子ヲ免ル方面ヨリ論スレハ年度ノ初ニ償還スルモノト最モ望マシキヤ、云ハナルヘカラス然レトモ償還ノ時ヲ決スルニ當リ單ニ財政上ノ都合ヲノミ見テ他ヲ顧ミナレハ弊害ヲ生スルモノト免レス故ニ又經濟上ノ狀態ヲモ顧慮セザルヘカラス即チ若シ金融ノ緩慢ナル時又ハ投機ノ起ラントスルニ際シ償還ヲ行ハ、却テ其勢ヲ大ナラシムヘシ之ニ反シテ金融ノ逼迫スルトキニ之ヲ行ハ、却テ之ヲ救フヘシ是レ償還方法ノ上乘ナルモノナリ

次ニ同一年度ニ於テ償還ハ一時ニナスヘキヤ數時ニナスヘキヤノ問題アリ國民經濟ニ及ス影響ニ就テ考フレハ可成數時ニ分テ之ヲ爲ヌヲ便トス一時ニ巨額ノ償還ヲナセハ金融ノ緩慢ヲ起シ又ハ資本家ハ償還ヲ受ケタル資金ヲ利用スル道ナキニ苦ミ投機的放資ヲナスニ至ル虞アレハナリ財政上ヨリ云フモ一時ニ多額ノ支拂ハ收支ノ平均ヲ破ルノ虞アリ故ニ數時ヲ便トスヘシ唯餘リ多キニ過タルトキハ手數ヲ要スルヲ不便トスルノミ

第二公債ノ全額ヲ一時ニ償還シ得レハ其方法ハ易々タレトモ其一部ヲ償還セントスルトキニハ茲ニ一定ノ償還方法ナカルヘカラス

普通採用セラル、法ハ抽籤償還法ナリ抽籤償還法トハ償還額ヲ定メ抽籤ニヨリテ其當籤者ニ額面ヲ以テ償還スル方法ナリ若シ公債ノ時價カ額面以下ナルトキハ此償還方法ハ不當ニ權利者ヲ益シテ國庫及其納稅者ヲ害スルコト、ナル加之其當籤者カ全國中種々ノ土地ニ住スルモノナルトキハ資金カ離散シテ金融市場ニ何ノ益ヲモナサ、ルヘシ是ニ於テ買上償還ノ法アリ買上償還トハ國庫カ取引所又ハ其他ノ公債所有者ニ就テ公債ヲ時價ニテ買入レ以テ償還ヲ了スル方法ナリ此方法ニヨルトキハ同額ノ金ヲ以テ多額ノ償還ヲナスコトヲ得ルノミナラス公債ノ市價下落ヲ妨止スルコトヲ得ヘシ加之金融逼迫セル地ニ於テ買入ルトキハ此地ニ資金ヲ注キテ之ヲ救フノ作用ヲナス從テ國庫ヨリ見ルモ金融上ヨリ見ルモ利益ヲ生スト云ハナルヘカラス市價ニヨリテ買入レ以テ償還ヲ了スルハ政府ノ不信ヲ表白スルモノナリトシテ攻撃スルモノアレトモ市價以下ニテ買入ヲ迫ルモノニアラス之ヲ賣ルモノハ自由意思ニヨルモノナレハ之ヲ政府ノ不信トナスヲ得サルナリ

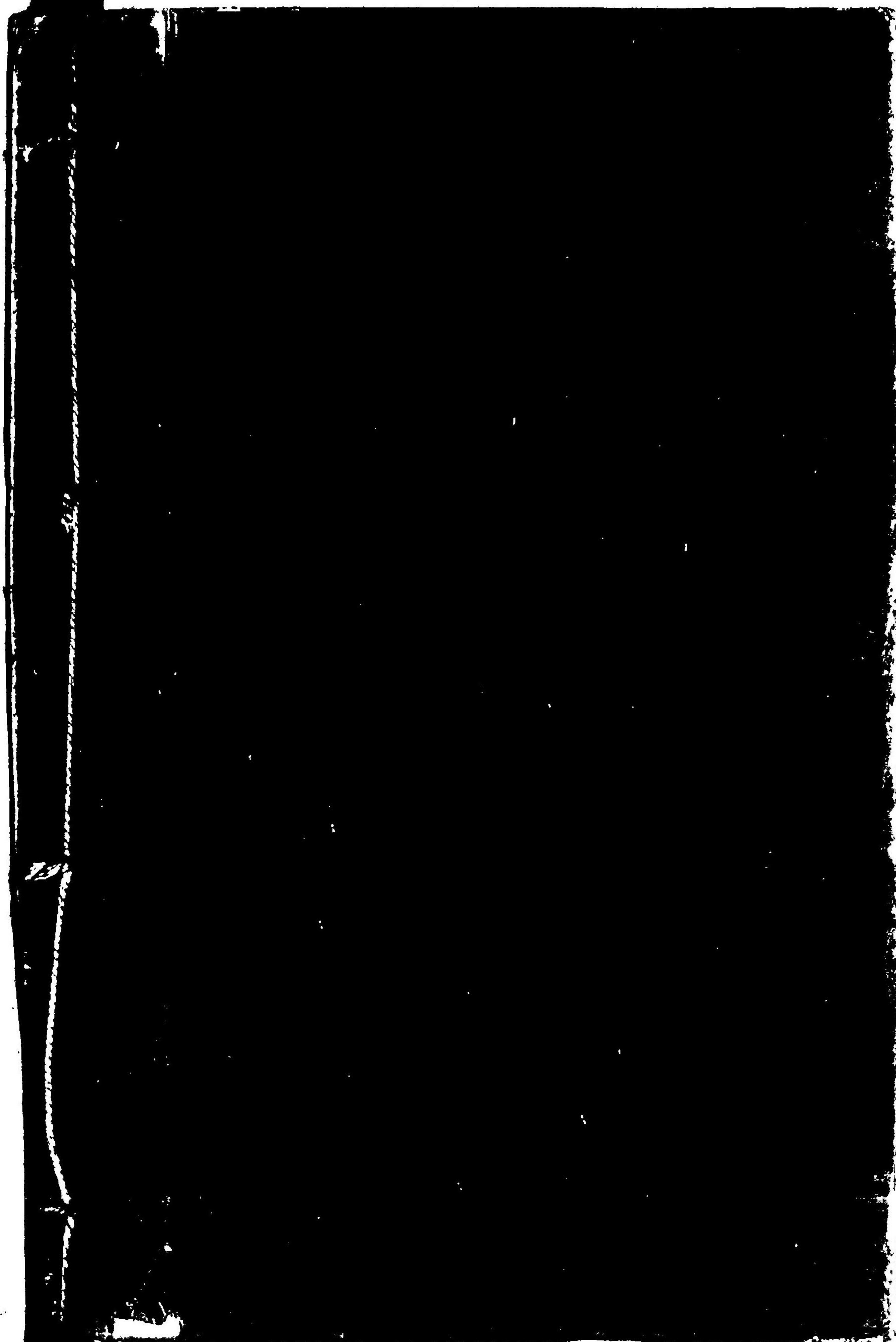
公債ノ買上ヲ爲スル其價格カ平價以下ニ存スル場合ニ於テスルヲ普通トス若シ平價以上ニテ買上クルトキハ多額ノ金ヲ以テ小額ノ公債ヲ償還スルニ止マリ國庫ノ損失ヲ招キ間接ニ納稅者ヲ害スルコト、ナルヘシ併シ平價以上ニテ公債ノ買上ケテ爲ストキハ愈公債價格ヲ高ムルコトヲ得ヘシ是ヲ以テ金融政策トヨリ之ヲ辨護スルモノナキニアラスト雖トモ若シ國家ニ變事アリテ買上償還ヲナスコト能ハサルニ至ラハ公債價格ハ一時ニ暴落シ到底其勢ヲ支フルコトヲ得サルヘシ其例證ハ英國ノ南亞戰爭前後ニ求ムルコトヲ得ヘシ平價以上ノ買上ヲシテ平價ヲ超ユルコト愈々大ナラシメ買上停止ニヨリテ之ヲ暴落セシム是レハ爲テ以テ漲リニ公債價格ノ暴變ヲ招クモノニアラスシテ何ソヤ而シテ公債價格ノ暴變ハ之ヲ所有スルモノ、資産ニ大變動ヲ與ヘ延テ經濟社會一般ヲ擾亂スルニ至ル是レ誠ニ恐ルヘキノ結果ナリ故ニ平價以上ノ買上ハ實ニ財政上ノミナラズ經濟上ノ觀察ヨリスルモ亦之ヲ戒メサルヘカラス故ニ我國ノ法律即チ明治二十九年法律第五號國債證券買入銷却法ハ買入價格ハ證券額面ニ超過スルヲ得スト定メテ重シ平價以上ノ場合ニハ抽籤方法ヲ用ヒ平價ヲ以テ償還スルヲ便トス此ノ如クストキハ國庫ノ損失ヲ招カサルヘシ假令公債證券ノ價ヲ平價ニ下シ之ヲ

購買セシムルノ作用ヲ呈セラルルモ亦償還ヲ一時停止シタルカ爲ニ一時暴落ノ亂
 調ヲ見ルナカルヘシ是亦經濟上喜フヘキ現象ニアラスヤ
 要之公債ノ償還ハ其價格カ平價以下ニ在ルトキハ買上方法ニヨルヘク平價以
 上ニ在ルトキハ抽籤方法ニヨルヘク

公債論 終

昭和二年二月

1
106



(M)

040516-000-3

ユ-106

公債論

小川 郷太郎/述

[M37?]

BDE-0129

